

# 海岸防災林合同植樹式を開催

(公社)福島県森林・林業・緑化協会



参加者全員で記念撮影

平成27年6月6日(土)、相馬市磯部字大洲地区において、東日本大震災の津波で流失した海岸防災林の再生に向け、平成26年度に海岸防災林の植樹活動に関する協定を締結したNPO・企業等5団体と関係者が一堂に会し合同植樹式を行いました。

式典では福島県副知事が「美しい景観を取戻し、復興のさらなる前進につながり、新たな名勝となることを期待します。」と挨拶を述べられました。続いて植樹式会場の海岸防災林土地所有者である相馬市長、最後に植樹者を代表して福島県森林土木建設業協会会長が挨拶を述べられました。続いて植樹式会場の海岸防災林土地所有者

である相馬市長、最後に植樹者を代表して福島県森林土木建設業協会会長が挨拶を述べられました。

植樹に用いた苗木は、松くい虫に対して抵抗性のあるクロマツで、5月の全国植樹祭で、開催県の石川県から福島県に寄贈された高さ70～100cmの3年生不織ポット苗1,000本と、緑地創造研究会苗木プロジェクト共同企業体が、ヤマト福祉財団の「東日本大震災生活・産業基盤復興再生基金」を活用して生産した高さ30cm内外のコンテナ苗4,000本です。

式典後参加者全員で集合記念写真撮影、その後、0.54haの敷地に植樹しました。植樹にはNPO・企業等のご家族や地域のみなと保育園の園児を含めて総勢250人が参加しました。



森づくり団体による植樹活動



楽しく植樹する みなと保育園の園児たち

植樹場所は、「白砂青松」の景勝地としてたたえられ、震災前は多くの観光客等で賑わっていたところです。

植樹に参加した全員が20年後、30年後さらには100年後のクロマツ林を想像し、無事に生育してくれることを願いながら、1本1本心を込めて丁寧に植樹しました。特に大勢の保育園児たちは、移植ペラをしっかりとって、とても楽しそうに植樹していた姿が印象的でした。



親子協力しながらの植樹活動



テレビ取材を受ける子どもたち